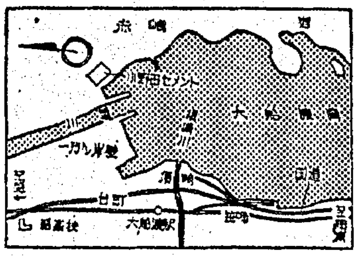
身の毛もよだつ"黒い潮"

緑の郷土、一朝にして泥海

大船渡　起きた時は床下へ

【村上大船渡支局長】津波に見舞われた大船渡市の惨状は目をおおうばかり。昭和八年の三陸津波に数倍する大打撃を受け、平和郷は一瞬にして濁水の町と化した。

二十四日午前四時二十分ごろ、市民は深い眠りになり響くサイレンに安らかな眠りを破られた。魚市場の職員及川永さん（[illegible]）が魚市場前の岸壁で海底の見えるほど引いた海水に"すわ津波"と市役所のサイレンを吹鳴、間もなく小野田セメントのサイレンもけたたましく鳴り渡り、市民に急を告げた。及川さんの話によると午前四時二十分ごろ、第一回目の津波が押し寄せ、このときは大したことがなかったが、二回目は高さ四㍍ほどの荒ら波が厚い壁になってぐんぐん押し寄せ、あっという間に岸壁にぶつかり、市民は命からがら逃げた。延長四㌔の大船渡湾にあふれた海水は情け容赦なく低地から低地を選んで流れ込み、一瞬のうちに町なみをなめつくした。初めのうちサイレンを火事ぐらいにしか思っていなかった大船渡町内の人たちはゴーゴーという海鳴りに寝ぼけまなこで飛び起きたときには、はや海水は床下にまではいり込み家財道具一つ持ち出すこともできなかった。被害のもっともひどかったのは同湾の最奥部に当たる同市大船渡町地の森から同町須崎地帯を経て岩手かん詰め工場付近までの約二㌔の整然とした大船渡町商店街で、線路を出はずれ二級国道の立体交差地点までは異常がないが、大船渡地ノ森湾内から以南は破壊された家屋の柱や屋根、家財などが積み重なりどこが道路かわからぬほどである。県南バス大船渡営業所付近ではバスやトラックがてんぷく、同側の家は全部床上まで浸水しており、こうした状態は盛駅方面から下船渡まで続いている。岸壁には三十㌧から五十㌧級の漁船、貨物船十数隻と、小野田セメントの製品の搬送船奥洋丸（四千㌧）が一万㌧岸壁近くの砂浜に打ち上げられている。大船渡線はいたるところ道床が洗われ、同町地の森地内では約二百㍍の軌道が流失というありさま。



"静かな津波"が大被害

救援活動に災害をまぬがれた消防団五百人が出動、一時間おきに押しよせる津波もものかわ、直ちに救助を開始したが、余りの惨状に手がつけられない。犠牲者は収容されたが、ほとんどの死体は着物洋服を身につけている。腰までつかる海水を押し分けながら逃げだそうとするときにくずれ落ちる家屋の下敷になり、流れたと思われる。遺体を収容した地の森西光寺の本堂では妻子の遺体にとりすがり泣きくずれる涙の対面があちこちにくりひろげられた。とりわけ夫と愛児の二人を一緒に失った大船渡町野々田カバン店石川良平さん（[illegible]）の妻幸子さん（[illegible]）のあわれな姿は人々の涙をさそった。こうした惨状に命からがら高台に逃げのびた被災者はまだ信じられないように海なりが続く海面をぼうぜんとみつめ立ちつくしていた。津波は地震の後にくるものと信じていた市民は、前ぶれが全然なかったので「静かな津波」のおそろしさにおののきながら不安の夜を迎えた。

荒れ果てた海の国園

宮古　高浜の被害が一番

【松橋宮古支局長、西川特派員】宮古市でも、もっとも被害のひどかったのは高浜、金浜、津軽石の宮古湾の奥に当たる部分で、閉伊川河口の宮古橋や山田線鉄橋の橋脚に大きな漁船がひっかかっている。さらに上流の宮古高校や八幡宮の裏あたりまで、のしあがっている船もある。いつもはきれいな陸中海岸国立公園の宮古湾も一面雑多なものがゴミのように浮いて無気味によどんでいる。藤原地区や八幡沖の市街地はアイオン台風で作った閉伊川護岸のため被害はほとんどなかったが、磯鶏あたりから浸水家屋のひどいのが見えてくる。道路は波にあらわれてゴツゴツ、根が出かかったネギが倒れてドロに埋まっている。

巨大なラワン材がゴロゴロ浜に打ち上げられており、人々は水につかった家財道具や衣類、フトンの始末に立ち働いている。磯鶏から高浜に入ると風景は一変して家という家が見るも無残に倒れているのに海からもカキイカダなどが打ちあげられたりしてゴミ箱をひっくり返したようだ。消防団や高校生が道路にのし上がった船のひきおろしや倒れた家のあと片付けに汗を流している。そのかたわらではこわれたタンスからドロまみれになった晴れ着をひきずり泣き顔になった娘さんの姿はあわれさをそそる。

金浜、津軽石と進むにしたがって被害もひどく、海岸沿いの国道は高浜から津軽石に向かって約十㌔の間が波にさらわれ、鉄道は金浜から津軽石の間、一㌔がひどくやられている。

東北に二億円融資

大蔵省は太平洋岸津波の災害対策として二十四日、東北財務局に二億円のつなぎ融資を準備するよう指示した。差し当たって宮古、釜石、気仙沼、大船渡などになる見込み。

着のみ着のままで休む

不安去らぬ夜

【高橋釜石支局長、菅原、小林特派員】釜石市と上閉伊郡大槌地方の沿岸住民は津波の恐怖がまだ去らず、二十四日夜は着のみ着のまま床についた人たちが多く、荷物をまとめたままいつでもとび出せる態勢で眠られぬ一夜をすごした。釜石市では海岸沿いの消防団が、七十人の団員で夜を徹して津波の再来を警戒している。大槌町では三百人の団員が、かがり火をたきながら波の動きを警戒している。

夜にはいって大槌町では日赤県支部から毛布三百枚、シャツ二百着が届き、被災者たちを元気づけているが同町の被災者五十世帯、百三十人は大槌小、水産センター、公民館、保育所などに泊った。炊きだしも行なわれ、八戸自衛隊からヘリコプターがやってくるという情報に、打ちひしがれがちな町民を力付けている。

食糧手持ち二日分

孤立した船越

【山田町で菅原特派員】下閉伊郡山田町船越地方は津波のためサケ川で有名な織笠川が逆流してあふれた海水のため、部落の七〇％が被害を受けた。電灯、電話線が切断され、山田線や二級国道なども不通になったため、食糧の手持ちは二日分で、電灯もつかず被災者は親類や知り合いに避難、身寄りのない二十世帯は織笠小学校に収容され、被災者は食糧、衣類、毛布、ローソクなどの救援を待ちかねている。山田町織笠支所内の津波対策本部調べによれば、家屋の流失十九、全壊六、半壊七十六、床上浸水百五十、非住家全壊六で、被災世帯数は二百六十七、被災者は千六百人、ノリ、カキなどの漁業施設は全滅とみられている。

涙も出ない惨禍

両石　漁具奪われた漁師

【高橋釜石支局長、菅原、小林特派員】釜石市は中心部の被害もさることながら両石、片岸、箱崎、唐丹町小白浜など漁業部落の惨状はさらにひどい。両石町の百五十戸は家と家との間に漁船がはまり込み、カキイカダのタルが家の中に入っているのもある。住家、納屋などは床板から柱まで持ち去られ、ぼう然自失した母子、一ヵ統百万円もの定置網を失って頭をかかえる漁師、涙も出ない惨状だ。明治二十九年、昭和八年の津波を経験した両石町久保松太郎さん（[illegible]）は「地震のない津波は、はじめてだ。第一回目の波がきてはじめて津波を知り避難した。全く恐ろしいことだ」と沖をながめ海を見守っていた。

また箱崎町でも家が道路の真ん中に押し流されたり、五十㍍にわたって道路が決壊し、目もあてられない。しかし部落民は総出でかいがいしく働き、あと片付けに懸命だ。七ヵ所の魚加工場は全部道具を流し岸壁近くのノリ、種カキも全滅、秋には全く収入がなくなると漁民の表情は暗い。

怒濤、鉄都制す

起重機うなりもとまる

釜石

【高橋釜石支局長】恐怖の夜明けが過ぎて数時間、外海はどこまでも青く風さえない好天気だが、港という港、海辺という海辺は悪臭がただよい、つぶれた民家、田畑にあがった船、水びたしの家財道具など目をおおう惨状だ。釜石港は数百のタルとドラムかんが湾内に浮かび、艀々と貨物船、漁船が散らばっている。いつもなら耳をつんざくばかりのクレーンの音で活気に満ちる鉄都の桟橋も静まり返り、無気味な口をあけている岸壁の亀裂と、重さ百七十㌧のクレーンが曲がっているのが、津波の恐ろしいばかりのエネルギーをはっきり物語っている。床上浸水五百五十八戸、被災者は着のみ着のままだったので、フトン、タタミ、衣類のはてまで水びたしになり、塩水につかって全く手に負えない。商店では食品類から機械類まで水をかぶり泣くにも泣けない人たちが多い。市衛生課、釜石保健所は総出で消毒をはじめ、市福祉事務所は災害家庭に毛布、ナベ、カマを支給して救助の手をさしのべた。

織笠で百戸流失

【山田町で西川特派員】山田町は大沢と織笠がもっともひどい。山田町電話線もメチャメチャで連絡がとれず、陸の孤島化している。大沢は日東捕鯨のドラムカンがへいを破って山手にのし上げられたため裏手一帯の水田はドラムカンで一ぱいとなり、重油もこぼれたのでこんごの稲作が心配されている。織笠は集団地帯三百五十戸のうち百戸が流失した。

家もろ共湾内へ

宮古高浜　七人奇跡的に助かる

さんたる被害の宮古市高浜地区へ市役所内の災害対策本部が牛乳、パンなど食糧品を届けた。同地区の漁業谷間田次郎さん（[illegible]）の一家七人は第四波に家ごと湾内へ押し流され、一時間半後に同地区の岩間良治さん所有の発動機船に全員救われたが、恐怖の模様を谷間さんは、「ゴーッと地なりがしたと思った瞬間、湾内へ押し流された。最初は平屋のためハリにのぼったがすぐハリを壊わして屋根にのぼり、求いを求めた。生きた心地はなかった」と語った。なお沿岸の小、中学校は臨時休校した。

大船渡電話局の復旧に全力

岩手電気通信部は、市内外線とも全線不通となった大船渡電話局復旧のため二十四日午前九時第一陣二十人、午後二時第二陣二十人の復旧員に交換機二台と復旧資材を持たせて急行させ、市外回線を重点に徹夜で復旧に当たった。復旧は警電市外回線が二十五日午前中、一般市外回線はそれより遅れる。

花沢さん、命拾い

大槌　カモイにしがみつく

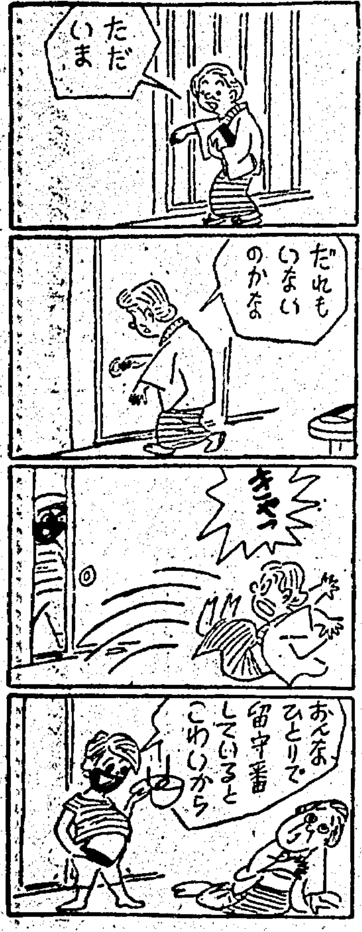
【大槌町にて小林特派員】釜石、上閉伊地方沿岸では大槌町がもっともひどい痛手を受けた。大地震のあとに来るという定説を破って何の前ぶれもなくやってきたこんどの津波は、同町内だけで約五十戸を越える民家を押しつぶし、海岸一帯にところかまわず猛威を振るった。海辺に住む者の宿命というには、あまりにも無惨なツメ跡だけが生々しく残っていた。町内園芸場に約二千平方㍍の空地がぽっかり出来た。引揚げ者住宅十戸と一般住宅二十戸が建っていたのが、ごっそり流され跡カタもない付近は大槌川から逆流した海水があふれて津波の猛威に輪をかけたという。町営住宅三十四戸もカモイまで浸水、ガラス戸はメチャメチャにこわされたが、辛うじて流失を免がれた。町営住宅に住んでいて水死寸前に流れついた漁船で九死に一生を得た花沢ハナさん（[illegible]）は恐怖のもようを次のように語った。

主人がカゼ気味で寝ており、サイレンの音で表へ飛び出したがその時は家の近くまで水が来ていて逃げられなかった。間もなく水カサがどんどん増し、水圧や流木などで窓ガラスがばりばり破れ出し、家具や畳が浮き出してしまい、首まで水が来たが主人と二人でカモイに必死にしがみついた。間もなく水がひけ表へ出たら家の近くに漁船が流れていたので近所の人たちと一緒に乗り移り消防団員に助けてもらいました。

㊤廃虚となったわが家の跡に立つ母娘＝宮古市高浜
㊦家と漁具を奪われぼう然と海を見る老人＝釜石市鵜住居

茶の間さん

改田昌直


ただいま
だれもいないのかな
きゃー
おんなひとりで留守番しているとこわいから

義援金品を募集

二十四日太平洋岸全域にわたって襲った大津波で、本県沿岸は最大の被害を受け、陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮古市、久慈市など本県主要都市はじめ各市町村は死傷者多数のほか、住家の全半壊、流失、浸水で被災者二万三千人を越えた。県は六市町に災害救助法を適用、現地に救いの手をさしのべていますが、岩手日報社は県、ラジオ岩手、日赤県支部、県社会福祉協議会、NHKとともに、広く県下から義援金品を募集、一日も早い復旧の一助にする考えです。県民の厚情あふれる御援助を希望します。

◇受け付け期間＝五月二十四日から六月二十五日まで。
◇受け付け機関＝主催各機関。
なお寄付者のご芳名は本紙上に掲載報告いたします。

岩手県、岩手日報社、ラジオ岩手、日赤岩手県支部、県社会福祉協議会、NHK盛岡放送局

本社とラジオ岩手が五万円ずつ

岩手日報社とラジオ岩手は二十四日、県下の津波被害者に対し、それぞれ五万円ずつ贈ることを決めた。

不動産詐欺に懲役一年

盛岡市上田小路二〇〇青果物商高橋斉（[illegible]）にかかる私文書偽造、同行使、詐欺事件判決公判は、二十四日午後三時から盛岡地裁で開かれ、大塚判事から懲役一年（執行猶予三年）の判決が言い渡された。高橋は三十二年十月ごろ、同市上田下台地内にある知人の土地をかたに借金を頼まれたと偽わって、同市与力小路二一〇広田斉郎さんに四十万円で売りつけ、所有者の知らないうちに不動産売買証書など偽造して渡していた。

紙風船

◇…二戸郡福岡町石切所の青果物商柴田富次郎さん（[illegible]）は二十三日午前五時ごろ、名勝「馬仙峡」の名で知られる石切所地内馬淵川の大淵でデッカいコイを釣り上げた。

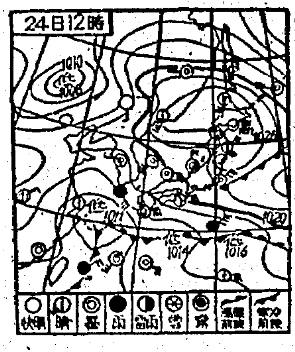
◇…魚体は長さ六十㌢、胴まわり四十㌢、重さ六㌔という大物だけに、引きが強く、柴田さんは朝から大汗をしたたらせ"暁の大捕物"に立ち向かい、みごと釣りあげた。

◇…柴田さんは宴会用にと同町内料理店を軒並み持ち歩き、某料亭に千五百円で売ったが、一尾で七十人分のアライが作れるという。

（写真は柴田さんの釣りあげた大ゴイ）

◇お断わり　「黒いタイヤの恐怖」本日休載。

天気予報



【概況・二十四日午後三時】カムチャツカ南部にある低気圧から南西にのびる前線は、関東南部に達している。また東支那海にも低気圧があり、東および南西にのびる前線を伴っている。一方北海道南部に中心を持つ高気圧が広く本邦をおおっている。このため西日本では曇っているところもあるが北日本は全般に晴れている。

【内陸】二十五日は東よりの風、晴れのち時々曇り。二十六日は東ないし北よりの風、晴れたり曇ったり。

【沿岸】二十五日は東ないし南よりの風、曇りのち晴れ。二十六日は東のち北よりの風、曇りがちで朝方小雨。

【海上】二十五日は東の風、おだやかだが南部ほど多少風波がある。二十六日は東のち北よりの風、多少風波があり、はじめのうち一時風波が高い。なお異常波浪注意報は継続中。

23日の気温（盛岡）
最高　二一・〇度
最低　九・〇度

あす（26日）の暦　（旧5月2日）

日出	4.12
日入	18.52
月出	5.10
月入	19.00
月齢	0.6
満潮	2.59
〃	17.10
干潮	10.19
〃	22.12

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。